

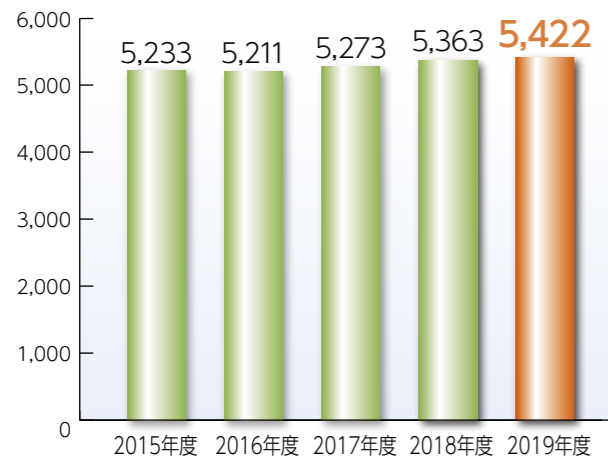
2019年度の事業概要

2019年度は中期経営計画『～プロローグNEXT50～共創の発揮』の初年度として、計画完遂に向けて全力で取り組みました。基本方針を①持続性の高い収益体質への深・進化②金融仲介機能発揮の深・進化③人材力・組織力の深・進化とし、地域やお客様の信頼と期待に応え、地域と共に発展し、豊かな地域の未来を創り上げていくこと（共創）によって、地域金融機関としての強固な経営基盤を確立することを目指し、それぞれの施策を地道に取り組んでいます。

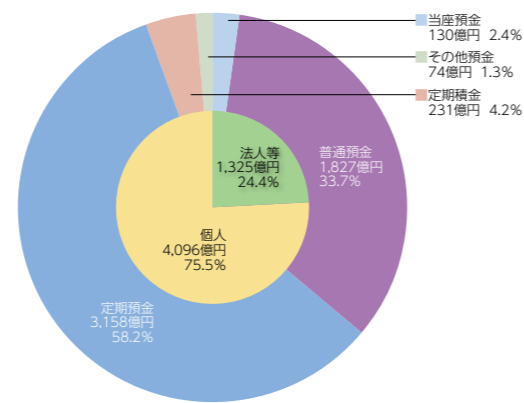
預金積金

地道できめ細かな営業活動を通じ、お客様との絆を深め、ボーナス預金や定期積金、年金口座の募集に取り組みました。預金残高は対前期末比 59 億円増加し、5,422 億円となりました。

▶ 預金残高の推移 (単位：億円)



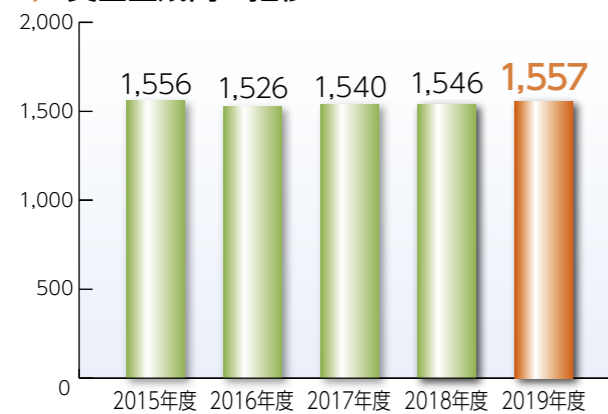
▶ 預金の法人・個人別、科目別構成



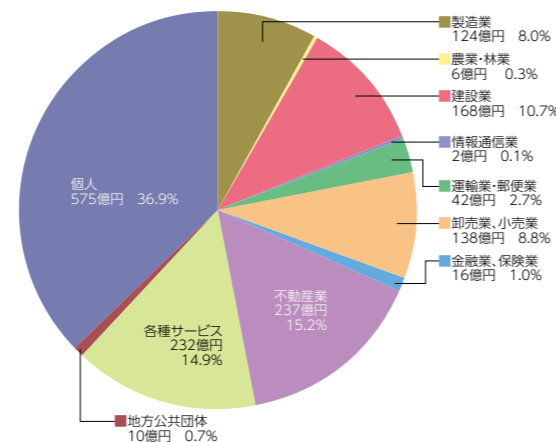
貸出金

事業者の皆さまには様々なニーズにお応えした事業性ローン等の融資商品を、個人の皆さまにはライフステージに応じた各種ローン商品で積極的に取り組みました。貸出金残高は対前期末比 11 億円増加し、1,557 億円となりました。

▶ 貸出金残高の推移 (単位：億円)



▶ 貸出金の主な業種別構成



損益

貸出金利息は貸出金残高の増加等により対前期比 111 百万円の増加となりました。有価証券利息配当金は市場金利の低下が長期化し減少しました。しかし、経費の削減等により、当期純利益 1,080 百万円を計上することができました。

▶ 経常収益の推移 (単位：百万円)



国債等債券売却益等の増加等により経常収益は対前期比増加しました。

▶ 当期純利益の推移 (単位：百万円)

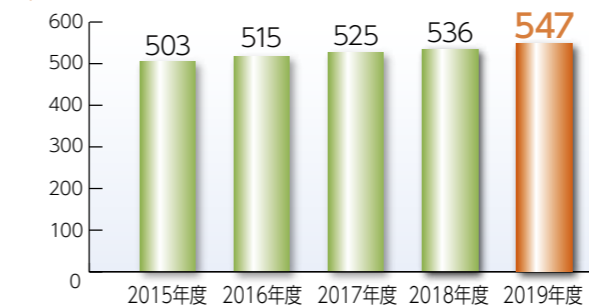


厳しい収益環境のなかではありましたが、経費削減等に努め、1,080 百万円の当期純利益が確保できました。

自己資本

当金庫の健全性・安全性は引き続き高い水準を堅持しており、お客様からの普通出資金や適正な内部留保等により自己資本比率は 23.37%となりました。今後も、堅実経営を基本として、一層強固な財務体質の構築を目指してまいります。

▶ 自己資本額の推移 (単位：億円)



自己資本額は、「コア資本に係る基礎項目」と「コア資本に係る調整項目」で構成されています。(詳しくは、自己資本の充実の状況等の項をご参照下さい。)

▶ 自己資本比率の推移 (単位：%)



金融機関の健全性を示す重要な指標のひとつで、国内金融機関は4%以上が求められていますが、当金庫は基準を大きく上回っており高い水準の健全性を維持しています。新告示（パーゼルⅢ）にて算出しております。

主な経営指標の推移

		(単位：百万円 %)				
		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
利 益	経常収益	7,751	7,498	7,058	6,958	7,430
	経常利益	2,000	1,904	1,702	1,642	1,512
残 高	当期純利益	1,515	1,402	1,252	1,209	1,080
	出資総額	1,185	1,187	1,188	1,188	1,188
	出資総口数 (千口)	2,370	2,374	2,376	2,377	2,377
	純資産額	59,694	58,212	58,506	59,744	57,791
	総資産額	590,560	585,716	591,441	602,562	606,877
	預金積金残高	523,366	521,162	527,313	536,305	542,218
	貸出金残高	155,617	152,649	154,004	154,679	155,796
有価証券残高	260,843	253,606	250,655	235,864	204,424	
単体自己資本比率		24.96	25.03	24.83	24.20	23.37
出資配当率		6.0	4.0	4.0	4.0	6.0
出資1口当たりの配当金 (円)		30	20	20	20	30
役員数 (人)		15	15	15	15	15
うち常勤役員数 (人)		10	10	10	10	10
職員数 (人)		359	337	340	339	325
会員数 (人)		33,419	33,527	33,587	33,672	33,716

(注) 総資産には債務保証見返勘定を含んでいます。